株式会社文溪堂

道徳研究

No.58

○特集：補充・深化・統合を意図した道徳授業の創造

- 論 文：「道徳の時間以外で行う道徳教育と，道徳の時間をどのようにつなぐのか」…赤堀博行
- 実践例：橋本ひろみ／中治謙一／藤井隆之

巻頭言

「ハヌケムスメ」のいる暮らし

声優・歌手　佐久間レイ

子どもの感性、特に歯の抜け替わるころの子どもは特別です。私はその時期の子どもをと「妖怪ハヌケッパ」と呼ぶにはあまりにも間抜けてこちらの顔もほころびます。

我が家のハヌケムスメも毎日楽しそうで、私にさまざまな友達を紹介してくれました。マンホールの蓋の「まんまるちゃん」、近所のおばあちゃんやカラス、大好きな木や野良猫たち、境界線のない世界で遊ぶ鋭い感性は、時に大人の痛いところをついてきます。

ある時、「ママは平気なの？」と鋭い問いかけ。実はお地蔵様のいる祠の前が、ゴミの集積所になっていたのです。祠の屋根からカラスが食い散らかした生ゴミが垂れ下がっていることもありました。だれもが見て見ぬふり、代替地は？と言われても……、そんなオトナに、真っ直ぐに向けたハヌケムスメの疑問でした。

「嫌なカラスだねえ」「ゴミなんか捨てて罰が当たるよ」そんな声を聞いて「ママは、私がひどいことしたら、仕返しをする？」とおかしな質問。「仕返しはしないよ、でも、どうしてなの？って思って悲しいよ」と答えると、「やっぱりそうか」と二通の手紙を書き上げました。それは世田谷区長に宛てた精一杯の思いでした。

「ゴミ捨て場だから捨てる人は悪くない、カラスだって生きているからお腹がすくよ。だからカラスも悪くない。お地蔵様は罰なんか当てないよ、町の人はお地蔵様の可愛い子どもだから、仕返しはしないよ。でも気付いてって悲しんでいるよ。助けてください。だれも悪くないけど、もうゴミだらけのお地蔵様は見たくない」

そんな願いが叶って、集積所は廃止になりました。「子どもの言うこと、ちゃんと聞いてくれたんだね、何だかすごくうれしい」と、社会への信頼感のようなものが芽生えたムスメも今は大学生。

ニッと笑った前歯の隙間から、無限の宇宙や夢に繋がっている子どもたち。精一杯発信してくる心の声を、しっかりと受け止め、投げ返すことで、人や社会を信頼する心が育つのかな、と、ハヌケッパに教えられた私でした。

コード6-1600

詳細情報をご覧いただけます。 http://www.bunkei.co.jp/

全面改訂

新学習指導要領完全対応

●ワイド判 ●オールカラー

『1～6年生の道徳』が，さらにパワーアップ。
2010年度は，学校の教育活動全体を通じた道徳教育推進の参考となるよう，各教科等の内容や時期を示した全体計画を，CD-ROMに収録。

読んで見て，心に響く児童書

普遍的課題，今日的課題を網羅
- 基本的な生活習慣，社会生活上のきまりを身に付けること，自他の生命を尊重すること，人間としてしてはならないことをしないこと。
- 情報モラル，いじめ，ボランティア活動，家庭や地域との連携など。
- 環境，規範意識，キャリア教育，自尊感情，食育，人権，伝統文化，人間関係，福祉など。

素材表現方法のバリエーション
- 生活文，児童作文，先人の伝記，スポーツ選手の話などのノンフィクション，絵本，まんがなど，様々な表現方法の魅力的な資料。
- 児童の心を動かす，歴史を築き上げてきた先人，そして現在も活躍中の人々。

ビジュアルな紙面
- 文溪堂だけの大判を生かして，イラストや写真を充実。
- オールカラーの紙面に美しいイラストや写真を多数収録。
- 全資料を見開き完結で構成（必要のないページに視線が行かず，授業への集中を高めます）。

規格

児童書　全学年 AB判オールカラー
- 1・2年／104ページ
- 3・4年／128ページ
- 5・6年／144ページ

教師用指導書　全学年 AB判2色
- 1・2年／232ページ
- 3・4年／256ページ
- 5・6年／272ページ

生きる喜びをはぐくむ

ぶんけいの 1~6年生の道徳

監修　真仁田 昭・新井 邦二郎

定価　児童書 560円（本体価格＋税）
教師用指導書 2,600円（本体価格＋税）

ぶんけいの道徳指導資料 充実の付録CD-ROM

道徳研究 No.58
2010.09発行

東京本社　東京都文京区大塚 3-16-12　〒112-8635　TEL 03-5976-1311 (代)　FAX 03-5976-1300 (代)
岐阜本社　岐阜県羽島市江吉良町江中 7-1　〒501-6297　TEL 058-398-1111 (代)　FAX 058-398-2821 (代)
大阪支社　大阪府東大阪市今米 2-7-24　〒578-0903　TEL 072-966-2111 (代)　FAX 072-966-2110 (代)
ホームページ　http://www.bunkei.co.jp/
道徳のことなら　http://www.bunkei.co.jp/kokokara/doutoku/
株式会社文溪堂

道徳の時間以外で行う道徳教育と、道徳の時間をどのようにつなぐのか

文部科学省初等中等教育局教科調査官
国立教育政策研究所教育課程調査官　赤堀博行

※本年十月に、道徳教育・道徳授業に役立つ教育書『心を育てる要の道徳―補充・深化・統合へのアプローチ―』（赤堀博行編著）を弊社より発売いたします。学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育を、道徳の時間でどのように補充・深化・統合していくのか、その「要」となる内容を解説しています。

ここでは、本書より赤堀先生の文章を一部転載しました。

⊙自己の生き方についての考えを深める

今回の学習指導要領の改訂では、道徳の時間の目標に、道徳的価値の自覚を深めることに加えて「自己の生き方についての考えを深める」ことが示されました。

これは、道徳の時間の特質である道徳的価値の自覚を一層促し、そのことを基盤としながら、児童が自己の生き方に結び付けて考えてほしいとの趣旨を重視したものです。

道徳の時間が人間としての在り方や生き方の礎となる道徳的価値について学び、それを自己の生き方に結び付けながら自覚を深め、道徳的実践力を育成するものであることが、より明確になったところです。「自己の生き方についての考えを深める」ことについて、児童は道徳的価値の自覚を深める過程で、同時に自己の生き方についての考えも深めていますが、特にそのことを強く意識して指導することが重要であることを示したものです。

児童がよりよくなろうとする自分を感じ、自己を肯定的に受け止められるようにしたり、他者とのかかわりや身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめたりすることができるようにします。このことを通して、現在の生活及び将来の生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにすることが大切です。

端的に言えば、道徳の時間で、児童一人一人が自分とのかかわりで道徳的価値について考え、道徳的価値を視点に自分自身を振り返ることができるような授業を組み立てることが求められているということなのです。

⊙道徳の時間以外の道徳教育を補充・深化・統合により道徳の時間とつなぐ

道徳の時間は、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動など、学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育の要の時間としての役割があります。それでは、道徳の時間以外の道徳教育と、道徳の時間とのかかわりをどのように捉えればよいのでしょうか。

［第3章 道徳 第1目標］には、「～各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め～」という記述があります。このことから、道徳の時間以外の道徳教育と道徳の時間の指導をつなぐものは、補充、深化、統合であるということが分かります。

第一に、道徳の時間以外の道徳教育と密接な関連を図るためには、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動の特質に応じて行う道徳教育が明確になっている必要があります。つまり、具体的にいつ、どのような指導をするのかを明らかにしておかなければならないということです。

第二は、道徳の時間の指導を行うときには、各教科等において行った道徳教育によって、児童が道徳的価値についてどのような学びをしたのかを吟味することが求められます。このことを補充、深化、統合するのです。

1 補充

児童は、学校のさまざまな活動の中で、多様な道徳的価値について感じたり考えたりしますが、道徳の内容のすべてについて考える機会があるとは限りません。道徳の時間は、このように学校のさまざまな活動で考える機会を得られにくい道徳的価値などについて、補充する役割があります。

具体的には、低学年の児童は、生活科の授業において「家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする」ことを学習します。

また、高学年の児童は、家庭科の授業で「家庭には自分や家族の生活を支える仕事があることが分かり、自分の分担する仕事ができること」や「生活時間の有効な使い方を工夫し、家族に協力すること」を学習します。

一方、中学年の児童は、授業を通して「家族とのかかわり」について学ぶ機会は少ないのです。

また、児童は、学校の中でさまざまな活動をしますが、「美しいものに触れ、すがすがしい心をもつ」ことにかかわる学びは、日常の活動の中で十分であるとは限らないでしょう。

これらの道徳的価値についての学習は、道徳の時間において補充することが求められるのです。

2 深化

学校における児童のさまざまな活動は、何らかの道徳的価値にかかわっていますが、それらの活動を通して道徳的価値の意味などについて、必ずしもじっくりと考え、深めることができているとは限らないことが考えられます。道徳の時間は、このように道徳的価値の意味や自己とのかかわりについて、一層考えを深化させる役割を担っているのです。

具体的には、児童は学校生活の中で、さまざまな勤労にかかわる活動をしています。例えば、清掃活動です。自分たちが生活する教室などを当番活動として清掃します。教師は、清掃が始まるときに「しっかり清掃しよう」と指導をします。

また、清掃活動の状況を見て、手を抜いている児童には「自分たちの生活の場なので、しっかり清掃しなさい」と指導します。清掃活動の終了時には「きれいに清掃することはできましたか」と確認します。さらに、特別活動の学校行事に位置付けられた勤労生産・奉仕的行事としての地域清掃活動なども行っています。

しかし、その際に「働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く」ことの意味や自己とのかかわりをじっくりと考えているとは限りません。

また、理科において「身の回りの生物の様子を調べ、生物とその周辺の環境との関係についての考えをもつことができるようにする」ために、サクラやタンポポを調べて色や形などについて学習します。

その過程で自然への親しみをもつことが考えられますが、「自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にする」ことについて深く考えているとは限りません。このようなことなどから、道徳の時間において、道徳的価値について一層考えを深めるのです。

3 統合

児童は、道徳的価値にかかわる多様な体験をしていたとしても、それぞれがもつ道徳的価値相互の関連や、自己とのかかわりにおいての全体的なつながりなどについて考えないままに過ごしてしまうことがあります。道徳の時間は、それらを統合し、児童に新たな感じ方や考え方を生み出すというような役割もあります。

具体的には、児童は、友達と誘い合って登校します。その中で、その日に行われる教育活動への期待感を交流します。休み時間や放課後に友達とさまざまな活動をして、友達とともに過ごす喜びを味わいます。また、学級の係活動や当番活動などで友達と協力し合うことのよさを感じることもありますし、このほかにもさまざまな場面で友達とのかかわりをもっています。

道徳の時間では、「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う」ことを考える際に、これらの友達とのかかわりをとりまとめて、自分とのかかわりで考えられるようにすることが求められるのです。

道徳の時間において、各教育活動において行われる道徳教育を、全体にわたって調和的に補充、深化、統合するためには、道徳の時間以外でのねらいとする道徳的価値にかかわる児童の学びを把握しておくことが大切です。

このことを円滑に進めるためには、道徳の時間以外の教育活動における、道徳教育の内容や時期を示した全体計画を活用することが有効です。それは、道徳的価値にかかわって、道徳の時間以外の教育活動でどのような指導をしてきたのかが明確に示されているからです。

仮に、全体計画を見て、道徳の時間で扱う道徳的価値についての指導の機会が少なければ、補充をする必要があるでしょう。これまでの指導を振り返って、より一層深く考えさせる必要があれば、それは深化するということです。

◎補充・深化・統合を意図した道徳の時間の授業を創造する

1 ねらいとする道徳的価値についての理解を深める

―教師の明確な価値観―

道徳の時間の授業を行う際には、教師がねらいとする道徳的価値について、しっかりとした考え方をもつことが大切です。この考え方は、当然、教師の独善的なものであってはならないでしょう。公教育として道徳教育を進めているのであり、指導する内容は学習指導要領によることが大前提であるからです。

授業を計画する場合には、指導しようとする内容について学習指導要領を基に確認し、さらに解説において指導する内容の中心となる道徳的価値についての理解を図ることが必要です。

例えば、低学年の4－(1)「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。」ことについて指導する場合には、社会規範を守ることと、あるいは公徳ということはどのようなことなのかを解説などを基に確認し、低学年の発達段階から、どのような側面から「約束やきまり」を自分とのかかわりで考えさせるのかを明確にすることが大切なのです。

2 教師の価値観を基に児童の実態を明らかにする

―児童観―

はじめに、教師の価値観を視点に、児童がねらいとする道徳的価値について、どのような状況にあるのかを明確にします。このときに、児童がこれまでねらいとする道徳的価値についてどのような学びをしてきたのかが重要になります。前述の全体計画の別葉が生きる場面です。

例えば、前述の低学年の4－(1)の指導が十一月に行われるとします。その場合、別葉を参照して、四月からこれまで、道徳の時間以外の教育活動で、「約束やきまり」にかかわる指導を、いつ、どのように行ったのか、その結果、児童はどのような状況にあるのかを確認するのです。別葉に、

○五月―特別活動の学校行事「遠足」において、交通機関の利用の仕方にかかわって「規則の大切さ」について指導したこと

○七月―体育の授業で「水遊び」をする際の「約束やきまり」の意味を考えさせたこと

が示されていたとすれば、それらの指導により、児童は「約束やきまり」についてどのように考え、実際の生活ではどのように行動しているのかを明らかにすることが大切です。

次に、その結果、本時においては「約束やきまりを守る」ことについて、補充するのか、深化するのか、あるいは統合するのかを方向付けるようにします。補充、深化、統合は、一時間の授業の中ですべてを行わなければならないものではありません。児童の実態及び教師の意図によって適切に補充、深化、統合を図ることが求められているのです。

3 教師の価値観、児童観によって資料の活用の仕方を検討する

―資料観―

道徳の時間では、さまざまな資料が活用されますが、その多くは読み物資料です。個々の読み物資料には、読み物としての山場があります。しかし、それらの山場は道徳の時間においても必ずしも中心場面になるとは限りません。道徳の時間で活用する資料の中心場面の根拠は、教師の価値観であり、児童観です。教師がねらいとする道徳的価値について、児童にどのように考えさせるのかが、中心場面を決定する上で重視されなければなりません。

例えば、「ないた赤おに」を活用する場合でも、「友達のよさ、大切さ」について価値理解を中心に学習を展開するのであれば、「赤おにが青おにの手紙を見て、友達の大切さを考える場面」が中心となるでしょう。また、困っている友達に対する思いの多様性について他者理解を中心に学習を展開するのであれば、「青おにが赤おにの相談にのる場面」を中心にすることが考えられるのです。

このように、道徳の時間の特質を生かすためには、道徳の時間以外の道徳教育とのかかわり、つまり、補充、深化、統合を重視するとともに、教師の価値観、児童観、資料観、言い換えれば教師の指導観を明確にすることが求められるのです。

かぼちゃの気持ちを自分とのかかわりで捉え、思いや課題を培う

東京都世田谷区立池之上小学校　**橋本ひろみ**

●**主題名**　注意を聞き入れて

●**ねらい**　注意を聞き入れ、わがままをしないで節度ある生活をしようとする態度を養う。

●**活用する資料**　かぼちゃのつる1-(1)（『1ねんせいのどうとく』文溪堂）

主題設定の理由

■ねらいとする道徳的価値について

―**価値観**―

自分のわがままを押さえ、節度ある言動をしないと、自分も他の人も互いに気持ちよく生活できません。このことは、一年生もさまざまな体験の中で学んだことがあるはずです。発達段階から、そのような体験もすぐに忘れてしまいがちですが、取り立てて考える機会があまりなかった、ねらいとする道徳的価値や自分の生活態度について、改めて考えることで道徳的価値の自覚を深めていく必要があります。他の注意を受け入れないわがままな態度は、他の人も不愉快、迷惑であり、自分自身も困ることについて考えを深めることと（深化）ができる年齢にきています。互いに体験を紹介し合う中で場面対象を広げ、家庭、学校、社会生活全般にわたり、注意を聞き入れ、わがままをしないで生活することについて思いや課題を培っていきたいと考えます（統合）。

■これまでの生活や学習の様子から

―**児童観**―

一年生は、自己中心的なそれまでの世界から、少しずつ他の注意を受け入れることや、わがままをすると人とうまくいかないことを経験してきています。

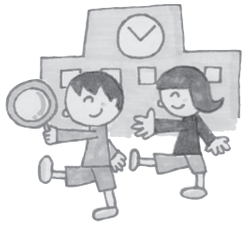
例えば、幼稚園や保育園と比べると非常に短い休み（遊び）時間。もっと遊びたくて、なかなか教室に戻ってこないことや、なかなか一輪車が片付けられないこと。入学して、新たな約束事が多い日々。「いけないんだよ」と注意されてけんかになることなど、ねらいにかかわる日常の指導は多くあります。しかし、そのような場面で、教師からの注意という他律的動機ではありますが、わがままをしないで節度ある生活をしようとしている児童の姿があります。

各教科・領域における指導と成果から

生活科において

●**学校たんけん**

活動の前には、注意を守り、自分勝手な行動をしないことについて話し合った。



●**通学路を歩いて、地域の公園に遊びに行こう**

公園で遊具を順番に使い、幼児には順番を譲った行動についても帰校後に話し合った。

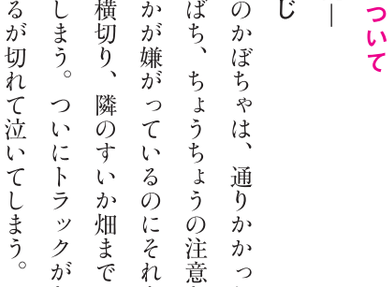
●**アサガオを育てよう**

アサガオの種まきでは、数の足りないスコップや水道を譲り合って順番に使う学習をした。しかし、我先に使い、使用後も放置し、友達が困る姿もあった。自分のことだけを考えないで行動する大切さを指導したが、継続した指導が必要である。

学校行事において

●**一年生を迎える会**

集会で迎えてもらい、全校朝会にも参加した。おしゃべりや砂いたずらは慎む指導を行ったが、すぐに忘れてしまいがちである。



●**春の運動会**

春の運動会は午後になると暑く、くたびれて「お家に帰りたい」「つまらない」と態度が乱れがちになった。最後まで応援させ、がんばらせる指導が必要だった。

補充・深化・統合の視点

本時では『ねらいとする道徳的価値』で述べたように、深化・統合に迫る授業を構想していきます。生活科で出かけた公園での遊具の使い方や、アサガオの種まきのときの道具や水道の使い方のことなど、まだまだ指導が必要な実態があります。自己中心性が残る一年生には、人の注意を聞き入れて生活できているかどうか、自分勝手な態度はなぜ困るのか、それは自分の生活のどの場面で起こるのかを、自分とのかかわりを考えさせます。

低学年児童の発達段階として、とにかくすぐ忘れてしまうことが挙げられます。学校教育活動全体での学びを授業に生かし、補充・深化・統合するためには、常に記録を取り、それを思い出したり、共有したりできるようにしておく必要があります。例えば、生活科などでの学びは写真やカードを掲示します。家庭、社会生活での学びは「せんせい、あのねカード」を保管しておき、必要に応じて掲示するなどの工夫をします。

■資料について

―**資料観**―

●**あらすじ**

主人公のかぼちゃは、通りかかったこいぬ、みつばち、ちょうちょうの注意を聞かず、すいかが嫌がっているのにそれも無視して道を横切り、隣のすいか畑までつるを伸ばしてしまう。ついにトラックがきてひかれ、つるが切れて泣いてしまう。

学習指導案

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点（●）指導の工夫（◆） 評価（★）
導入	1「わがまま」という言葉とかぼちゃのつるについて知る。 ○「わがまま」という言葉を知っているか。	●ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。資料の理解を助けるためにかぼちゃについて紹介する。
展開前段	2資料「かぼちゃのつる」を読み話し合う。 ①つるを伸ばしているときのかぼちゃは，どんな気持ちだったか。 ・面白いぞ。楽しいぞ。 ・すいかの方へ行ってみたいな。 ②注意されてもつるを伸ばしているときは，どんな気持ちだったか。 ・うるさいな。ぼくの自由でしょう。 ・じゃまだな。あっちに行ってほしい。 ・注意なんか聞くものか。 ❸かぼちゃはつるが切れて，どんなことを考えただろうか。 ・みんなの注意を聞けばよかった。 ・親切なみんなにひどいことを言った。 ・ごめんなさい。もうしないから助けて。	●かぼちゃへの共感を高め，自分とのかかわりで考えることができるようにするために，児童が親しみやすい場面絵や切り抜き絵を使い，読み聞かせをする。 ●かぼちゃに共感し，注意を聞き入れたくないわがままな気持ちを話し合い，人間理解・他者理解を深める。 ●補助発問で節度ある行動を求める気持ちに気付かせる。「動物たちはどんな考えで注意したのか。」 ●つるがきれたかぼちゃに共感し，注意を聞き入れないことで起こる問題やそのときの気持ちについて考え，価値理解を深める。 ◆教師が短冊に話合いのキーワードを記入しておく。
展開後段	3自分の生活を振り返る。 ○注意されても言うことを聞かず，失敗したことはあるか。また，ちゃんと聞き入れてよいことはあったか。 ・注意を守って走らなかったら，友達がぶつかってきても転ばなかった。	●話合いで記入した短冊を活用し，自己を振り返るときの手助けとする。 ★ねらいとする道徳的価値を自分とのかかわりで考え，思いや課題を培うことができたか。
終末	4教師の説話を聞く。	●わがままをせず，節度ある行動をした児童の姿を紹介する。

●資料活用の視点

かぼちゃに共感し、自分の気持ちを押さえられない弱さや、注意を聞き入れたくない気持ちについて考えさせ、人間理解を深めていきます。そのためには、なぜ他の動物たちが注意をしているのかを補助発問で押さえ、それを中心発問に生かすことで他者理解、価値理解を深めていきます。

さらに、つるが切れたかぼちゃに共感し、注意してくれた動物の思いや、注意を聞き入れないことで起こる問題やその時の気持ちについて考えさせ、価値理解を深めていきます。

かぼちゃのつる

周囲の人々と、共に気持ちよく生活しようとする態度を育てる

東京都港区立麻布小学校　中治謙一

●主題名　みんなのことを考えて

●ねらい　社会におけるきまりや規則の意義について考え、積極的に守ろうとする態度を育てる。

●資料名　雨のバス停留所で　4－(1)
（『4年生のどうとく』文溪堂）

主題設定の理由

■ねらいとする道徳的価値について

―価値観―

児童は、社会の一員として成長する過程で、社会や集団のさまざまな規範を身に付けていきます。まず、約束やきまりを守ることができるようにすることが必要です。その過程で公徳心を養い、さらに社会のきまりのもつ意義について考え、それを遵守し、自他の権利を尊重するとともに、義務を大切にする精神をしっかりと身に付けるように指導する必要があります。規範意識を児童に育てるためには重要な内容項目です。

また、一般的な約束や社会のきまりを理解させ、それらを守るように指導していくことが大切です。さらに、公共物や公共の場所とのかかわりにおいても、みんなで使う物を大切にすることにとどまらず、社会生活の中で守るべき道徳としての公徳を大切にする態度にまで広げていく必要があります。

社会における規則の意義を理解させ、守るべきものとして行動しようとする態度を育てていきます。

これまでの生活や学習の様子

■児童の実態から

―児童観―

豊かな自然に触れる大山ハイキングの実施に当たって、現地までの往復に電車を利用することから、事前指導の集団行動の在り方や公衆道徳についての指導の中で、規則を守ることの意義を、意図的に考えさせた。

各教科・領域における指導と成果から

社会科において

●住みよいくらしをつくる

ごみの処理と利用の学習の中で、リサイクルを視野に入れたごみの分別の学習をした。この学習で、きまりと公衆道徳について考えさせることを意図的に行った。

児童には、収集車の人の話を聞くことなどを通して、自分の生活を振り返りながら、ごみ出しのルールやマナーについて考えさせた。

多くの児童は、ごみ出しのルールやきまりを守ることが、ごみ処理をする人々の安全につながることや、自分たちの快適な生活につながっていることに気付くことができた。

特別活動において

●遠足（学校行事）

豊かな自然に触れる大山ハイキングの実施に当たって、現地までの往復に電車を利用することから、事前指導の集団行動の在り方や公衆道徳についての指導の中で、規則を守ることの意義を、意図的に考えさせた。

学習指導案

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点（●） 指導の工夫（◆） 評価（★）
導入	1 学校のきまりについて発表し合う。 ○学校には，どのようなきまりがあるか。また，きまりについてどのような学びをしてきたか。 ・廊下は走らない。 ・使ったものは片付ける。 ・時間を守って行動する。 ・全校遠足で電車に乗ったとき，きまりを学んだ。	●身近なきまりを想起させ，ねらいとする道徳的価値への方向付けを行う。 ◆規則を守るということに対し，さまざまな注意を受けていることを振り返らせる。また，普段から受けている道徳教育を再認識させ，展開前段における深化をねらう。
展開前段	2「雨のバス停留所で」を読んで意見を発表し合う。 ①よし子はどんな気持ちでバスを待っていたか。 ・雨が降っていて嫌だ。 ・早く来てほしい。 ・早く乗りたい。 ②お母さんに肩を引かれ，列に戻されたとき，よし子はどのような気持ちだったか。 ・なんで引っ張るの。早く乗れないじゃない。 ・何か悪いことをしてしまったのかな。 ③「ほらごらんなさい。」と言うつもりでお母さんの顔を見たよし子は，どのような気持ちだったか。 ・おかげで乗れなかったじゃない。 ・席に座りたいな。 ・順番を守らなかったのは悪いけど，早く乗って座りたかったな。	◆視覚に訴える形で資料提示を行い，よし子に共感させやすくする。 ●雨に濡れながらバスを待つよし子に共感させ，ストレスがたまった状態で，列に並んで待つときの感じ方や考え方を出させる。 ●母親に肩を引かれたときのよし子に共感させ，公共の規則を守らず，注意を受けたときの感じ方や考え方を出させる。 ●母から注意を受けたにもかかわらず，自己中心的なよし子に共感させ，規則を守ったことで自分の身に不利益を被ったときの感じ方や考え方を出させる。
	❹お母さんの横顔を見ながら，自分のしたことを考えているよし子の心の中は，どんなだったか。 ・座りたかったけど，お母さんに怒られるから，しようがないな。 ・順番を守らなかったから怒っているのかな。 ・雨の日だからといって順番を守らなかったのは，よくなかったな。 ・みんなも座りたいのだから，順番を守らないことはいけないことだな。	●母の横顔を見ているよし子に共感させ，規則を視点に自分を振り返っているときの，感じ方や考え方を出させる。 ◆出された意見を類型化して板書することで，他者理解，自己理解に役立てさせる。 ★よし子に共感し，規則の尊重について自己とのかかわりで考えることができたか。
展開後段	3 これまでの自分を振り返る。 ○守らないといけないと分かっていながら，規則を守れなかった経験があるか。そのとき，どのような気持ちだったか。 ・廊下を走ってしまった。分かっていたけど，急いでいたのでいいかと思った。 ・ごみをポイ捨てしてしまった。そばにごみ箱がなかったから，少しくらいいいかと思ってやった。	◆規則を守らなければいけないと分かっていながら，守れなかった経験を発表し合い，自己とのかかわりで道徳的価値を捉えさせ，道徳教育の深化を図る。 ★自分を振り返り規則を守れなかったときの感じ方，考え方を深めることができたか。
終末	4 教師の説話を聞く。	

児童は，グループごとに電車の中で気を付けることを話し合い，公衆道徳を守ることについて，それぞれが目標をもつことができた。

実際の遠足においては，一部に車内で大声を出す児童が見られたため，個別指導をしたが，児童同士が互いに注意し合う様子も見られた。

日常の指導において

●学校のきまり（生徒指導）

学校生活のきまりとその意義について，年度初めに朝の会で一週間かけて，一つ一つ具体的に指導した。

児童は，きまりの意義や大切は，おおむね理解できているが，実際の行動では，特に廊下歩行や遊具の使い方で課題が見られることもある。

補充・深化・統合の視点

本時では，きまりを守ることの善し悪しだけではなく，きまりと自分たちの生活とのかかわりについて考えさせるようにします。そのために，社会科で学んだきまりを守ることが，住みよい暮らしにつながることの理解や，遠足で体験した公共交通機関の中でのの適切な過ごし方などの学びを生かし，社会の法やきまりのもつ意義について，自分とのかかわりでより深く考えさせるようにします。（深化）

また，身の回りにはさまざまなきまりがあることを再認識させ，一人一人の児童が，それらのきまりにどのようにかかわっていたのかを，広く振り返らせるようにします。（統合）

■資料について

―資料観―

●あらすじ

雨降りの日に母親と外出したよし子が，停留所でバスを待つ人々の順番を無視して列に割り込むが，母親の毅然とした行動を見て，自分の行為を反省し，規則を守ることの大切さに気付いていく。

●資料活用の視点

雨が降りしきる中，順番を守って並んでいた主人公であるよし子は，バスが来たと同時に早く乗ろうと列から飛び出してしまいます。規則を守らず，それを母親に注意され，自分の行動を振り返るところで資料は終わります。

最後の母親の横顔を見ながら自分の行動を振り返るシーンは，よし子が規則を守らなかった自分について考えている場面です。この部分を中心に考えさせることで，児童に自己とのかかわりで規則の尊重について考えさせることができると考えました。

この部分を中心発問とし，規則を守ることについて深化を図り，公共の場において自分はどのような行動をとるべきかを考えさせ，規則の必要性守っていこうとする態度を育てていきます。

雨のバス停留所で

自然の偉大さを理解し、自然を大切にしよう とする態度を育てる

埼玉県川越市立仙波小学校　藤井隆之

●主題名　自然を愛する心を
●ねらい　自然の偉大さを理解し、自然を大切にしようとする態度を育てる
●資料名　ひとふみ十年　3-(2)
（『5年生の道徳』文溪堂）

主題設定の理由

■ねらいとする道徳的価値について

―価値観―

人間は自然の恩恵を受けて生きており、自然環境は人間にとって必要不可欠であり大切なものです。地球温暖化や大気汚染など、自然環境の問題が取り沙汰されて久しく、児童もある程度の知識や理解はあります。しかし、日常生活の中で自然の恵みや素晴らしさ、偉大さを感じる機会は多いとは言えず、人間も自然と共に生きているという意識は育ちにくいのが現状です。

また、自然環境が破壊された結果、自分自身にどのような影響を及ぼしているのかが分かりにくいこともあり、自分がどこかで自然を損なう行為をしているのかもくことも少ないでしょう。

自然の偉大さを理解し、大切にする気持ちがなければ自然環境を守ることはできません。そこで、人間の力が及ばない自然の偉大さを理解し、自然に学ぶ態度を身に付ける必要があります。自然の中で、人間と自然や動植物との共存の在り方を積極的に考え、自分にできる範囲で自然環境をよくしようとする態度を育てていきたいものです。

これまでの生活や学習の様子

■児童の実態から

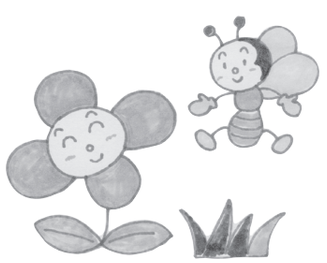
―児童観―

各教科・領域における指導と成果から

国語科において

●「サクラソウとトラマルハナバチ」

植物と動物の共生関係に興味をもち、身近な環境問題と結び付けて考えられるように指導してきた。



社会科において

●これからの食料生産とわたしたち

米の生産以外の水田の役割について、調べ、考えさせることを意図的に行った。児童は、気温の上昇を抑えたり、空気を清浄したりしていることに驚き、感心していた。また、一度、休耕田にしてしまうと、元に戻すのに六年ほどかかるという事実に、水田を守る必要があるという考えをもつ児童も見られた。

理科において

●植物の発芽と成長／花から実へ

発芽の条件、成長条件を調べるなど、さまざまな実験を行う一方で、インゲンとトウモロコシの種を一人に二粒ずつ配り、家庭でも育てるように促した。「発芽した」「花が咲いた」「実がなったので収穫して、サラダに入れた」などとうれしそうに話したり、日記に書いたりする児童が見られた。

●動物のたん生

メダカの飼育をグループごとに当番制で行っている。忘れずに世話をする様子が見られ、感心したことを児童に伝えた。

特別活動において

●委員会活動

栽培委員会の「学校に緑を増やす活動」では、学校・学年花壇の水やり、雑草取りなど植物の世話をしている。その中で、日々成長していく植物の様子を喜んだり、病気になって枯れる花々を心配したりする発言が聞かれた。また、環境委員会ではエコ活動に取り組むほか、モルモットの飼育をし、児童が親しめるように「ふれあいタイム」を設け、動物愛護に取り組んだ。

補充・深化・統合の視点

本時では、自然の偉大さを理解させるだけでなく、自然環境を壊してしまうと、元に戻すのには相当な時間と労力が必要であることを想起させます。そこで、社会科での休耕田についての知識や、水田の役割などの学びを生かし、自然を大切にしようとする思いがより深まるように考えさせます。（深化）

また、理科や委員会活動などで動植物を育てた経験を生かして、身近な自然を感じ、動植物と共存することについて、どのようにかかわっていたのかを広く振り返らせるようにします。（統合）

■資料について

―資料観―

●あらすじ

母と一緒に立山に出かけた勇は、その雄大な景色に見とれて高山植物チングルマの上に座ってしまい、自然解説員の松田さんに注意される。チングルマについて教えてもらい、「立山自然保護センター」に案内された勇は、チングルマに年輪があり、マッチ棒の太さになるまでに十年以上もかかることを知り、驚く。そして、松井さんから「ひとふみ十年」という言葉の意味を聞き、「たくさんの人に、この大自然を大切に味わってもらいたい」という思いを胸に刻みつける。

●資料活用の視点

主人公の勇は、初めて間近に見る立山の美しさにすっかり見とれて、思わず高山植物の生えている場所に腰を下ろしてしまいます。ここでは、大自然の美しさに、足下に気を配ることを忘れてしまうほど圧倒される勇の気持ちに共感させ、自然の偉大さに気付かせるように深化を図ります。

BOOKS INFORMATION

心を育てる要（かなめ）の
道徳
補充・深化・統合へのアプローチ

新刊
発刊予定
10月中旬！

学校には，子どもが伸びる種がいっぱいある！
- すぐに指導に生かせる実践構想を豊富に掲載
- 低・中・高学年それぞれの指導のポイントが的確に分かる
- 各実践構想に，赤堀先生による解説を掲載

赤堀先生「はじめに」より——

道徳の時間の授業で，他の教育活動で行われた道徳教育を補充・深化・統合するとはどういうことなのでしょうか。…本書は，今回の学習指導要領の改訂において，学校の教育活動全体を通して行われる道徳教育が重視され，要としての道徳の時間の役割が明確化されたことを受けて，この具体的な展開を提案するものです。各学校における教育活動全体を通じて，組織的な道徳教育の推進の参考となれば幸いです。

■判型／B5判　■ページ数／128頁　■定価／**1,800**円（本体1,714円＋税）

ぶんけい

学習指導案

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点（●） 指導の工夫（◆） 評価（★）
導入	1 立山の写真を見て，立山について知る。 ○立山に行ったことのある人はいるか。またどんなところか。	●ねらいとする道徳的価値への方向付けを行う。資料理解を助け，興味をもつように，立山について地図帳や写真を用いて紹介する。
展開前段	2 資料「ひとふみ十年」を読み話し合う。 ①勇が初めて立山の自然を見たとき，どんな気持ちだったか。 ・きれい ・すごいなあ。大自然だ。 ②勇がチングルマの年輪を見たとき，どんなことを思ったか。 ・十年以上かかってマッチ棒くらいの太さになるなんてすごい。 ❸「ひとふみ十年」の言葉を聞いて，勇はどんなことを考えたか。 ・見とれてしまって，踏んでしまったけど，悪いことしたな。 ・一度折れてしまうと，元に戻すのに十年かかるから，踏んではいけない。	●我を忘れて目の前に広がる大自然の美しさに感動する，主人公の気持ちに共感させる。 ●児童が考えやすくなるよう，年輪の写真などを提示する。 ●一度壊れてしまうと，元に戻すのに十年かかる自然があることを理解し，自然を守ろうとしている人がいることを知った主人公の気持ちについて考えさせ，価値理解を深める。
展開後段	3 自分の生活を振り返る。 ○身の周りにある自然について考えたり，したりしていることはあるか。	●自分の生活を振り返り，考えを整理するために書く作業を取り入れる。 ★ねらいとする道徳的価値を自分のこととして捉え，思いや課題を培うことができたか。（ワークシート・発言）
終末	4「心のノート」P51.52を読む。	●自然を大切にすることについて，改めて確認する。

また、高山植物チングルマの生態やみんなで山の自然を守ってきたことを聞いて、勇が考えたことを中心発問とし、自然の大切さや、自然環境を守ることについてどのような行動をとるべきかを考えさせ、自然を大切にしていこうとする態度を育てられるようにします。

実際の授業の様子などの詳細は、『心を育てる要の道徳』に掲載しております。

ひとふみ十年